

5年生箱根移動教室報告（5月28～30日）

0. 準備

クラス替えがあった1学期始業式。新しい環境に慣れる間もなく、次の日に箱根オリエンテーションを行いました。5年生は、1ヶ月半ほどの間に手作りの「わらじ」を仕上げなければならないのです。まず、わらを縛うことに時間がかかります。2mくらいの長さの縄を、3本作らなければなりません。せつかくできたと思ったのに、途中で切れてしまってやり直し…何度もやり直す子も少なくありません。縄ができたら



編み込みが始まります。編み込んでからは寄せ…これをわらじの幅を何往復もさせるのです。休み時間になると「見て下さい！」と、チェックを受け、やっと一つ出来上がるのが、4月下旬。これを3つ揃えるのは、なかなか大変なことなのです。直前には、6年生に履き方を教わって、ようやく本番を迎えます。

もちろんフリータイムや箱根の歴史等も学習します。しかし、わらじ作りは5年生にとって貴重な体験になったはずで

1. わらじハイク（1日目）

靴と靴下を脱ぎ、足袋の上にわらじを履きます。そして塩むすびをくるんだ風呂敷を肩にかけ、いざ出発。畑宿の一里塚から箱根町の芦ノ湖畔まで、3時間余りの行程です。

初めは「七曲がり」という急斜面をひたすら登ります。立て続けにある階段には体力を奪われてしまいます。休憩場所では、「フレー、フレー、5年！」と、わらじ長たちが大きなエールをみんなに送りました。少しの間でも、水分をとったり、和んだりすると、なぜかやる気が湧いてくるものです。

そこからは石畳が続きます。江戸時代のもので残っている部分もあるようです。石の不規則な凹凸に足裏を痛めながら、「昔の人はこんなところを歩いたの？」と、想像がふくらみます。「わらじを履くより足袋だけ



の方がいいんじゃない？」と言っていた子も、わらじのありがたみを感じたに違いありません。昼食（おにぎり）は甘酒茶屋付近でとり、更に行くとも石畳の急斜面が待っていました。箱根八里にある「苔なめらか」とはこのことかと思わせるような斜面。みんな滑らないように下を向いて、小股でゆっくりと



歩き続けました。やっと下りだ！というところに、関所があって、役人が目的を尋ねます。ここでは通行手形がないと通してはくれないのです。わらじ長が目的地を大きな声で告げて、ようやく越えることができるのです。芦ノ湖が見えると、そこは元箱根。杉並木の途中で「箱根八里」の大合唱をして、元気よくゴールに辿り着きました。しっかり作った手作りのわらじのいたみ具合が、このハイクの思い出を語っているようです。

2. 箱根フリータイム学習（2日目）

箱根には11のグループ（歴史・民話 梅干し かまぼこ 鳥 火山 植物 温泉 寄木細工 乗り物 動物・虫 宿）があります。わらじ作りと並行して調べ学習を進めます。自分



なりにテーマを掲げて、実際に作ったり、実験したりしながら、進めてきました。それぞれ現地で専門の講師の先生方の熱いご指導の下、本物に触れながらの学習に目を輝かせている姿が見られました。



3. 金時ウォーク（3日目）

「ここ見て！ほら、すごいでしょ！」そんな声が飛び交うほど、山頂までは絶景につぐ絶景が心をいやしてくれます。大涌谷が噴火の跡であることや、川をせき止めてできたという芦ノ湖、そして湿原が広がる仙石原をみると、自然の雄大さに圧倒されます。急坂を登り切るとようやく頂上。そこからは、箱根の他、うっすらと富士山が見えました。頂上で食べるお弁当も最高です。ジリジリと照りつける太陽だけは厳しく感じられました。



登山道は狭く、1列でしか歩けません。そこを下りてくる人々とすれ違いながら挨拶を交わすのも山ならではの気持ちよさです。そういう清々しさを味わって、最高の金時ウォークになりました。



4. 仲間作り

晴天に恵まれた3日間でした。自然も活動も学習も、順調に進みました。そして、5年生自身が主体的に生活をつくってきたことも特筆すべきところです。

宿では生活長や保健長を中心に時間を守って行動したこと、レク長は盛大な歌合戦（発表会？）をつくりあげたこと、そしてみんなが声をかけ合って、よい集団を目指してきたことも大きな成果につながりました。

今回の合い言葉

「ひとりひとりの声かけでつなげよう 仲間と一つになれる箱根移動教室」

のように、5年生として、お互いに声をかけ合って、高め合う仲間作りができました。

